

本文と合わない文をえらぼう

小5／本文を読んで、合わない（まちがった）文を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 水を大切にを よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

じゃ口をひねればいつでも水が出るので、水はいくらでもある思いがちです。しかし、きれいな水を使えるようにするには多くの手間と費用がかかります。水は限りある資源です。むだづかいをしない心がけが求められます。

- 1 きれいな水には手間と費用がかかる。
- 2 水は限りある資源である。
- 3 むだづかいをしない心がけが必要。
- 4 水はいくらでもあるので気にしなくてよい。

2 こん虫の冬ごしを よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

こん虫は、まわりの温度によって体温が変わります。そのため寒い冬は活動できず、それぞれのすがたで冬をこします。カマキリはたまごで、テントウムシは成虫で冬をこします。春になると再び活動を始めます。

- 1 温度によって体温が変わる。
- 2 冬でも活発に活動する。
- 3 種類によって冬のこし方がちがう。
- 4 春に再び活動を始める。

3 天気予報のしくみを よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

天気予報は、あてずっぽうで出されているわけではありません。各地の気温や気圧、風などのデータを集め、コンピューターで計算して予想します。科学的な観測が予報を支えています。それでも、外れることもあります。

- 1 データを集めて予想する。
- 2 コンピューターで計算する。
- 3 天気予報はあてずっぽうである。
- 4 外れることもある。

4 外来種の問題を よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

外来種とは、もともとその土地にいなかった生き物が、人の手で持ちこまれたものです。外来種は、もともたいた生き物のえさや住みかをうばうことがあります。そのため自然のつり合いがくずれることがあります。生き物を勝手に放してはいけません。

- 1 外来種は元々その土地にいなかった。
- 2 外来種はもとの生き物を助ける。
- 3 自然のつり合いがくずれることがある。
- 4 生き物を勝手に放してはいけません。

🔍 いちごドリル プリント